

市内中学校の統合時期について

1. 市の基本方針 (R4.2月に決定)

福原中学校を尾花沢中学校に統合する。
 統合年度については、福原地区の意向を踏まえつつも、地域の動向や教育環境の変化を考慮し見極め、総合教育会議で判断していく。

2. 中学校の統合年度

○ 令和8年度に、福原中学校を尾花沢中学校に統合します。

3. 令和8年度統合とした考え

- ① 福原中学校の生徒数が、令和7年度まで50名台で推移するが、令和8年度には46名となり50名を下回る見通しである。
- ② 本市の中学生が、全教科への専門教諭が配置された環境での学習や、部活動の環境充実により自分に合った部活動を選択できる等、充実した教育環境で学ぶことができる。
- ③ 部活動の地域移行が進められる中、統合により指導者の確保や練習環境など、本市の中学生が統一した対応による活動ができる。また、各部の部員数が増えることで部活動運営に係る保護者負担が軽減される。
- ④ 統合に向けた準備期間が欲しいとの声に対し、令和5年度に両校で統合に向けた活動計画を作り、令和6、7年度の2ヶ年の統合準備期間で十分な交流を図り統合への準備ができる。
- ⑤ 福原中の制服を、令和6年度新入生から段階的に尾花沢中制服に切り替えることにより、統一した制服での統合ができる。
- ⑥ 中学校の統合を、小学校の統合年度より1年早めることで、保護者の負担や閉校等に関わる地域の方々の負担を軽減できる。また、しっかりした取り組みにより学校を閉じることができる。
- ⑦ 福原地区検討委員会に出された、保護者アンケートでは、単年度による希望数は令和9年度統合の声が多かったが、令和6年、7年等早い段階での統合の声も多く、それらも考慮したい。

4. 中学校の統合に向けた推進計画

年 度	統 合 準 備	備 考
令和4年度	○統合年度を総合教育会議で決定	・福中、尾中において、統合年度を見通した令和5年度教育計画を策定
令和5年度	○統合準備委員会立上げ・開催	・福中・尾中で統合に向けた活動計画作成 ・中学校での修学旅行等行事の調整 ・市内全小学校で、統合に向けた交流実施
令和6年度	○統合準備委員会開催 ・学校連携部会 ・PTA連携部会 ・地域連携部会	・統合準備委員会（年間3回程度開催） ・福原中閉校関係協議会 ・中学校統合に向けた交流活動の実施 ・制服等の切替
令和7年度	○統合準備委員会開催 ・学校連携部会 ・PTA連携部会 ・地域連携部会	・統合準備委員会（年間3回程度開催） ・福原中閉校関係協議会 ・中学校統合に向けた交流活動の実施
令和8年度	○統 合	・尾花沢中の現校舎を使用し統合

※以上の推進計画のもと、スムーズな統合に向け準備を進めてまいります。

5. 統合を進めるにあたって配慮すること

以下のことについて配慮しながら統合を進めてまいります。

① 児童生徒等への配慮

統合により子供たちは、これまでの人間関係に加えて、新たな児童生徒や教職員などとの人間関係を構築していかなければなりません。子供たちが新しい学校生活にスムーズに移行できるよう、事前に学校間の交流活動等を計画的に行うなど、児童生徒の心身の負担軽減に向けた取り組みを行います。併せて、保護者間の交流活動にも取り組み、統合後に円滑なPTA活動が図られるよう対応します。

② 通学への配慮

通学に関しては、遠距離となることからスクールバスを運行し、安全・安心でかつ短時間での通学時間となるよう、運行経路を検討します。

※具体的な運行経路に関しては、統合時(令和8年度)の生徒の居住状況を踏まえ検討することになりますが、統合準備を進める中で、あらためて保護者の方々のご意見をお聞きする機会を設け、意見を踏まえ検討してまいります。

③ 地域への配慮

各学校とも、これまで培われてきた伝統や歴史、また地域との結びつきがあることから、こうした地域との関りを絶やさぬよう、ふるさと学習の一環としての地域の方々との交流を継続し、地域と共に歩む学校創りに取り組みます。

④ 閉校した学校施設の利活用

学校は、教育施設としてだけでなく、防災拠点や地域コミュニティの中心的な役割を担ってきたことから、閉校する学校施設の機能に留意しつつ、地域の活性化に繋がるような利活用について、地域の方々と一緒に検討します。